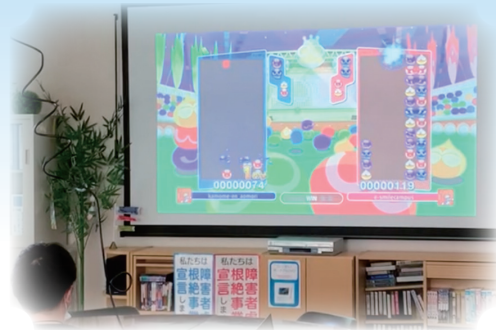


かがやき

No.138



地域交流会2023【かもめ苑】



大画面で楽しむeスポーツ【かもめ苑】



ゲンキノカタマリ展2023【あどおん】



教材【あどおん】

INDEX

令和5年度 第2回知的発達障害部会 総会 2	人権擁護委員会「じんけん Board」 6
本人部会 3	施設紹介「あどおん」 8
障害者週間記念行事 4	施設紹介「かもめ苑」 9
	リレーコラム、編集後記 10

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



令和5年度 第2回 知的発達障害部会 総会

広報委員 坂口 啓（調布福祉園）

令和5年度第2回総会は、10月25日（水）にオンラインによる開催となりました。内容は、行政説明・部会からの報告事項・記念講演の3つのテーマが取り上げられた総会となりました。

●東京都行政説明

「東京都における障害者施策について」東京都福祉局 障害者施策推進部より、以下の事項について説明がありました。

- (1) 障害者施策等のBCP施策支援のご案内
- (2) 情報公表制度に係る更新手続きについて
- (3) サービスを担う人材の養成・確保関係事業について
- (4) 施設サービス事業について
- (5) サービス管理責任者に関する告示改正について
- (6) 事故・虐待防止対策について

●部会からの報告事項

今回の総会は議決事項はなく、以下の事項の報告となりました。

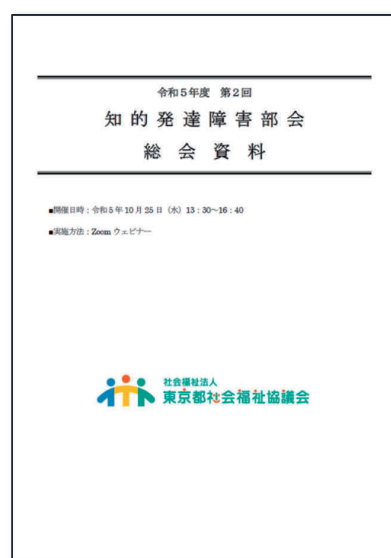
- 【報告1】 東京都令和6年度予算に関する要望書の提出について
- 【報告2】 令和5年度上半期事業報告および下半期事業計画について
- 【報告3】 災害時被害状況把握システム運用について
- 【報告4】 SessionTokyo2023について
- 【報告5】 本人部会からの報告

●記念講演

「国連・障害者権利委員会の総括所見（勧告）から学ぶべきこと～令和6年度報酬改定を前にこれからの知的障害福祉を考える～をテーマに、特定非営利活動法人日本障害者協議会 理事・政策副委員長の佐藤 久夫氏を講師に迎え、ご講演をいただきました。

国連・障害者権利委員会の総括所見について、分かりやすく解説していただき、その中でも、「フル」インクルージョン（障害のある者もない者同じ場で学ぶ）は現実的か？という話では、同じ教室で同じ教育課程を学ばせることは、むしろ差別ではないか。根本的な改革が必要という視点や、障害を医学モデルとして本人の機能障害に注目するのではなく、社会モデルとして、社会にある困難の原因をなくし、差別をなくしていくという考えは、改めて、福祉・支援について見つめ直す良い機会となりました。

貴重なご講演ありがとうございました。



本人部会 「4年ぶりの交流会（横浜食べ放題ツアー）」

本人部会支援委員会 委員長 松下 功一

令和5年度は、急遽、本人部会支援委員会委員長が交代するという不安の幕開けでした。しかしながら、新旧委員の皆さんのご協力があって、本人部会としては4年ぶりの外出行事を実施することができました。本人部会は年3回の部会総会でのスピーチ、東京大集会でのスピーチ、SESSIONへの参加とやる事が盛りだくさん。実際にお手伝いしてみると、大変さより楽しさが勝っていて、次に本人部会委員の皆さんに会うのが楽しみになっています。

そして、本人部会委員の皆さんがとても楽しみにしているのが交流会です。皆さんの希望を伺うと、候補地は10か所以上あがります。選ばれたのは「横浜中華街食べ放題」。何とも響きがいいではないですか。「カップヌードルミュージアムでは、自分だけのカップヌードルが作れるんだよ」。ますます盛り上がります。

「横浜だったら家から直接行った方が便利」「ヘルパーさんが手配できるか分からない」「車椅子での移動が不安」「長い距離を歩くのはちょっと…」「飯田橋に10時集合は無理」あれ？この企画はどうやってまとまるの？だんだん不安になってきてしまいました。せっかく行くのだから、出来るだけ長い時間現地で楽しみたいし。

役員会でリフト付き観光バスの利用を承認していただき、10月21日（日）9：45に西新井駅に

集合したのは本人4名、支援者5人。楽しみにしすぎて8時には駅にいた方もいました。車椅子利用の方の家の近くまで大型観光バスでお迎えに行き、2名乗車してから首都高速で横浜に向います。途中の渋滞もベテランドライバーさんの機転で回避でき、予定通り関内駅11：30到着です。ほとんどの方が集合していましたが、中には電車遅延に巻き込まれた方もいます。大混雑の中華街を歩いてお店に向います。

総勢26人が一斉に注文開始です。料理が届いても届いても片っ端から無くなっていきます。そしてまた頼む、あっという間に無くなる、の繰り返し。お店のメニューのほとんどを頼んだら、カップヌードルミュージアム予約の時間が迫ってきます。お目当てはマイカップヌードルファクトリー。自分でデザインしたカップに、お好みのスープとトッピングを選んで、世界で一つだけのオリジナルカップヌードルを作ります。

楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。帰りのバスでは「忘年会どうする？」ですって。



障害者週間記念行事 “ゲンキノカタマリ3”

文化・芸術活動支援特別委員会 委員長 大浦 孝啓

〈ハイブリットアート展「ゲンキノカタマリ3」〉

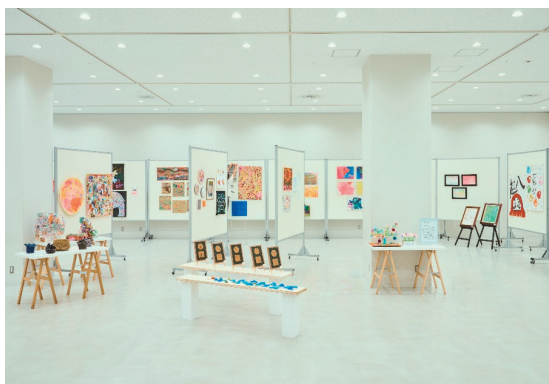
7月5日（水）～7月10日（月）にたましんRISURUホールにてアート展“ゲンキノカタマリ3”を開催しました。

過去2年間はコロナ禍ということもあり、作品の撮影のみを行ってまいりましたが、今年度は初めて実展示も3日間開催し、37事業所152作品が集まり、ハイブリット展示を行いました。

撮影したすてきな作品に関しては、東社協知的発達障害部会の障害者週間記念行事にて公開しておりますので是非ご覧ください！（ゲンキノカタマリ1・2の作品も東社協知的発達障害部会のホームページにアーカイブされています）



【障害者週間記念特設サイト】
公開期間：2024年3月31日まで



ハイブリットアート展会場の様子

“Session! Tokyo 2023”

障害者週間記念行事

11月26日（日）～28日（火）に飯田橋セントラルプラザ1階のエントランスホールと2階みやこ橋で障害者週間記念イベント“SESSION TOKYO 2023”を開催しました。

3日間入れ替わりで約10団体ずつの事業所がご利用者の制作された自慢の商品の販売を行いました。

今年度は初心に立ち返り、ディスプレイセミナーも開催し、“売り方”“見せ方”を学んで実践に臨んだこともあり、趣向をこらした素敵な店舗になっていました。

また初日の26日には、本人部会の皆様がウェイター・ウェイトレスを務めた「しあわせカフェ」が12階でOPENし、おいしいコーヒーもふるまわれました。



じんけん Board

わたしの

ニヤリ

ホッと

支援を通じた利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

・自身でゴミを捨てるのが苦手な利用者に対して、職員さんがゴミ捨ての支援を行った際、本人の気持ちを引き出しつつも、伝える事ははっきりと言うことで、お互い納得した形の支援を一步踏み出すことが出来、とても心強かったです。

・忙しくしていると「何かできることがあったら教えてください」と気さくに声を掛けてくれる職員さん、言いやすい雰囲気を作ってくれて大変ありがたいです。

・職員さんはいつも優しく温かい口調でお話していて、ご利用者も穏やかな気持ちでいられるのだろうなと思いました。

・職員さんが、担当ご利用者のいつもとほんの少しだけ違った行動や表情を見て、「念のため」と体温を測っていました。その小さな気づきと、それを見逃さない行動力がご利用者の健やかな生活に繋がっていくのだと思いました。

・職員さんがご利用者外出を率先して取り組んでいる姿と、新人職員へ外出の参加を提案、企画書の作成などとても丁寧に伝えていた事にニヤリ！

・朝のバイタルが保存できておらず、やりなそうとしたところ、夜勤明けの退勤時間ギリギリにも関わらず、職員さんが一緒に測り直して下さいました。

・ユニット内のリネンを外した際に、ご利用者さんが自主的にリネン袋に入れて下さいました。起床後に手伝ってくれるやさしさに心が温かくなりました。

・職員さん、近くで花火大会があるからみんなで観ようと急遽提案していただき、夕食後ご利用者と一緒に屋上で綺麗な花火を観ることができました。職員、ご利用者共に夏のよい思い出になりました、ありがとうございました。

・ひとりでイベントに使った衣類を片付けていたところ、通りすがりの職員さんがすかさず手伝いに来て下さいました。優しさが嬉しかったです。

・他フロアのおやつ提供に参加させて頂きましたが、事前に配慮しなければいけないことを詳しく丁寧に記入して準備して下さった職員さん。安心しておやつ提供ができると思いました。さすがです！！

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

この方は
こうだろうなど
思い込み

作品背景
利用者の方に対して、一つの支援方法でスムーズにいくと、それ以外の対応を模索しなくなってしまう傾向がある気がする。

大丈夫
その問いかけは
大丈夫？

作品背景
利用者に使ってはいけないと思っているにも関わらず、ついついつかってしまいう言葉かけです。「大丈夫？」の問いかけには、大丈夫でなくとも「大丈夫」と返答してしまいます。

気をつけよう
利用者さんへの
言葉遣い

作品背景
より丁寧な言葉を遣っているのは利用者さん。利用者さんの見本となるように意識しなければならぬことはたくさんあると思います。利用者さんと職員の間には上下関係があってはならない、そんな思いから作り出した。利用者が「はい」という言葉に対し、職員が「うん」みたいな。

手を振って
こたえてくれる
街の人

作品背景
送迎時に外に向かって手を振る利用者さん。通行する全く知らない運転手さんが窓を開けて、送迎車が見えなくなるまで、利用者さんに手を振ってくれた場面。

入選作品

作…ぴよん

作品背景
家族の思い、職員の思い、それぞれの思いは分かるけれども、まずは目の前にいる利用者さんの幸せのためでは？と思っ

優秀作品

作…おかゆ

作品背景
利用者さんが硬い表情をしていたと思っていたら、周りの雰囲気や笑い声。ふと見るとニコニコと楽しそうに笑っている表情に。ほっこりした場面です。

最優秀作品

ふいに見た
笑顔が素敵
癒される

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp 宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

施設紹介 あどおん

特定非営利活動法人 MultiPride 理事長 岩元 珠実

【あどおん施設紹介】

あどおんは、特定非営利活動法人 MultiPride (マルチプライド) が青梅市新町に令和5年4月に開所した児童発達支援事業所です。青梅市初の多機能ではない児童発達支援のみの事業所で、定員10名で月曜日から土曜日まで営業しています。児童発達支援事業所としては珍しく10:00~14:00の4時間お預かりし、お着替え・トイレトレーニング、運動、食事指導・歯磨き、知育・療育等を行っています。また、金曜日は外部講師をお招きしてYAMAHA音楽リトミック教室を行うなど、発達が緩やかな未就学児にとって魅力ある指導内容になるよう取り組んでいます。

【あどおん名前の由来】

私(理事長)には重度知的障害を伴う自閉スペクトラム症の息子がおり、「この子を育てるためには、まずは知識を得なければ」と大学で学ぶことにしました。知り得た知識を基盤とし、試行錯誤しながら家庭内療育に励んだ結果、積み重ねた努力が花開き、息子は2019-2022年の4年間毎年NHKハート展に入選している経緯から、「しょうがいがあっても(優真/文芸社/2019年)」を出版しています。当事者家族であるからこそ分か

り寄り添える事実、更に、積み重ねてきた経験と実績を事業所の名前にしました。あどおん(Add-On)とは、追加の(もの)、付け足し(たもの)、付加した(もの)などの意味を持つ英語表現で、ITの分野では、ソフトウェアに追加される拡張機能のことをいいます。

「めばえからできるに、できるからとくいへ」と“Add-On”していく事こそが、我々が目指す支援の方向性です。

ホームページ <https://www.multipride.org/>
Amebaブログ <https://ameblo.jp/epicangel>

【あどおんが目指すもの】

「障がいを乗り越え、生きがいを感じながら人生を歩んでいけたなら…」

それは発達障がいを持つ子供たちにとっても、またその家族にとっても幸せなことです。いずれ老後を迎える保護者にとっては、それは最大の願いであり、希望でもあります。我々は、その理想に少しでも近づいていけるよう、それぞれの専門分野の立場から子供たちに接し、将来に向けた意義ある一歩のために、精一杯のサポートを行っています。



外観



施設内



教材



ゲンキノカタマリ展2023

施設紹介 かもめ苑

施設長 岩葉 滋希

《どんなところ?》

かもめ苑は本州最北端の竜飛岬に程近く、周囲を海や山に囲まれた自然豊かな青森県東津軽郡外ヶ浜町にある入所施設です。食堂からは陸奥湾が一望でき、下北半島へ往来するフェリーが見えるなど、雄大な景色が楽しめます。

《都外施設・地元との関わり》

平成9年に東京都民の方が暮らす施設（都外施設）として建設され、定員80名の内、約9割の方が東京都内の各所から利用されています。地元の方々との日常的な関わりは多く、日々の散歩や買い物、散髪などではいつも笑顔で挨拶を交わしています。毎年苑が主催している地域との交流会には県内外から700名以上の方が集まり、地元の方と一緒に楽しめる一大イベントとして定着しています。

《舞茸栽培》

開設当初よりご利用者が関わりながら栽培している舞茸は、唯一の県産舞茸として町の名産品になっており、コンテストで日本一となったメ

ニューの食材にもなりました。現在は県内だけでなく、シンガポール等の海外にも販路を広げています。

《おいしい給食》

管理栄養士の監修のもと、味噌カレー牛乳ラーメンや八戸せんべい汁などの青森のご当地グルメはもちろん、大手チェーン店風のハンバーグや牛丼などもあり、大人気の給食となっています。

《eスポーツ》

一昨年よりeスポーツに取り組み、全国大会にもエントリーしています。チームとしての1勝はなかなか苦勞していますが、最近はずいぶん全国上位の相手から1本奪取することに成功。日に日に盛り上がりを見せています。

《最後に》

ゆったりとした生活をベースに、いろいろなチャレンジを大事にしています。ぜひ一度遊びにいらしてください。



かもめ苑入口（春は桜が満開）



地元商店の出張販売



地域交流会2023



舞茸作り



大人気の給食



大画面で楽しむeスポーツ

「日の出福祉園の建替えが完了しました！」

社会福祉法人同愛会 日の出福祉園
事業所長 伊倉 和正

私の働いている、日の出福祉園は施設入所80名（男性45名、女性35名）、生活介護113名（通所生活介護33名）、短期入所5名、日中一時支援5名の東京都西多摩郡日の出町にある障害者支援施設です。

昭和55年に東京都が開設し今年で43年。平成19年に民間移譲され同愛会による運営が開始され16年となります。建物、設備の老朽化により、建替え工事が平成30年12月に着工し、令和5年1月に4年2カ月の期間をかけ完全竣工となりました。

個室化、ユニット化、ICT化をすすめ、伝統を守りつつ、ひとり一人に合わせた生活、活動、支援が行えるよう施設は生まれ変わりました。

私は平成30年11月から日の出福祉園に配属となり、これまでは建替えと新型コロナウイルス感染症と、今までに経験のない予測できない対応に追われた日々でした。利用者、ご家族の皆様には、多くの制限やご不便をかけてしまい心苦しく思っております。

職員も皆、設備や環境、感染症の状況が変わり、制限がある中でも、利用者が安心して暮らせるように、楽しんで過ごせるようにと、たくさんのア

イデアを出し、工夫をし、新しい日の出福祉園の生活と活動をすすめてくれており感謝しています。

さて、今、私は入所施設で働いています。国連・障害者権利委員会の総括所見（勧告）では、「入所施設や病院からの地域移行」「脱施設」等、今後の入所施設の在り方について強い意見があがっています。しかし、現状から言うと、施設入所への利用希望者は多く、日の出福祉園でも多くの待機者がいます。「地域」とありますが、この日の出福祉園のあるこの場所も「地域」ではないのでしょうか。日の出福祉園では、重度、高齢化が進み「地域移行」と共に「看取り」という課題についても話し合いが行われています。

あたり前の事だと思いますが、暮らす場所、生き方を選ぶ、決めるためには、利用者本人の意思決定が重要で、私たち支援者が意思決定への支援にどのように関わっていくのが大事だと思います。

今いる利用者、これからの利用者に対して、真に必要な施設としての機能の構築、建替え後の日の出福祉園の施設機能と支援のあり方を、皆で考えていきたいと思っています。

編集後記

昔の教科書で聖徳太子とされた人物が今は厩戸皇子。足利尊氏とされた絵が今は騎馬武者像。新たな発見によって教科書もアップデートされていく。かつて米の生育に不向きとされた北海道でも美味しいお米が出来るようになり、海水温の上昇で魚が獲れる場所も変わっていく。過去の常識にとらわれず、変化に対応していかなければならない。日々の支援においても利用者さんの事について決めつけたりせず、別の角度からアプローチしたりすることは大切です。とはいえ、なかなか難しいなあと思いつける今日この頃です。

（すぎな会愛育寮 小川 毅）